

校長室だより

第48号

発行日 2010年11月12日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤滋

【来年度から（中学・高等学校）】

来年度から中学校、高等学校ではそれぞれの新入生から、現在行っている数学と英語の習熟度別の学習指導が他の教科と同様にホームルーム単位で行われることとなります。 α 、 β 、 γ クラスという分け方がなくなります。小学校の保護者の中に、レッスン制がなくなることで、子どもが中学校に進学してから勉強についていけるかどうか不安に思われている方がいるようです。レッスン制によってこれまで大きな成果を上げてきたことは確かですが、この度の変革は中高のさらなる飛躍を目標にした取り組みです。小学校から中学校に進学する子どもたちの中には、勉強面で心配な子がいることは確かですが、私はこの新しいシステムの開始は子どもたちにとっても、成長の大きなチャンスであるとむしろ嬉しく思っています。同時に、小学校においてもこれまで以上に子どもたちが自信を持って中学校で生活できる力を身につけていけるようにしていくことが求められます。そのために何ができるか、何をしなければならないかを、子どもたちの実態を考慮しながら考えて行きます。

【授業参観後に】

先日行なわれた授業参観ではお子さんの学校生活の様子をご覧いただけたことと思います。参観後に何人かの子どもたちと話してみると、低学年の子は「お母さんが見ていてくれてうれしかった」「お母さんがにこにこしていた」とうれしそうに話してくれました。お母さんが笑顔でいてくれることが、子どもたちに大きな安心感を与えてくれることを改めて認識できました。

そんな会話の中で、「でもね、おうちに帰るとお母さんは、早くならいごとに行く支度をしなさい、早く宿題をしまいなさい、っていつも言うの」という声も聞こえてきました。子どもは「早く・・・しなさい」という声かけが好きではありません。さらに言うと、本当は「・・・しなさい」という命令的の声かけも嫌いなのです。でも、そういう嫌いな声かけも、子どもたちは何度も言われ続けているうちにあまり気にならなくなります。また、声かけをする方もそれが有効な声かけでないことは分かっていることではないでしょうか。

「・・・しなさい」のどこが問題なのかと言えば、それは、言われる対象（ここでは子ども）に考えさせる余地を与えないことであると考えます。そこで、「早く宿題しなさい」を「そろそろ宿題をしまわなさいといけないんじゃないのかな」に、「早く寝なさい」を「そろそろ寝ないと明日の朝つらいんじゃないのかな」に言い換えてみるのはいかがでしょうか。前回のたよりも書いたことですが、子どもが「自分で考える」という習慣はこういうところからも育つのではないかと思います。自己決定に伴って生じる責任ある行動は、大人になっても多くの場面で求められます。子どもの世界にもその基礎となる力を身につけるチャンスはたくさんあります。

【笑顔のやりとり】

授業参観でお母さんやお父さんの笑顔が子どもを安心させるということを上で書きましたが、笑顔（微笑み）のやりとりが学校生活の中で、いかに子どもたちを安心させ、やる気を起こさせるかということを、今週の朝会で話しました。

自然に表情に出てくる微笑みは、その微笑みを向けられた人の心を温かくしてくれます。また、自分の存在を認めてもらっている、受け入れてもらっているという安心感を持つことができ、自分からも何らかの働きかけをしてみようという気持ちにさせてくれるのではないのでしょうか。

仮に、微笑みが一方通行であったとしても、決して損をしたと思わなくていいんだよ。どうしてかという、それができたこと自体が素敵なことなのだからと子どもには話しました。

因みに、朝会の際、「朝の会で先生が皆さんに微笑んでくれたと思うけど、先生のそういう表情をちゃんと見た人は？」と言ったら、低学年はほとんど手が挙がりましたが、高学年ではあまり手が挙がりませんでした。先生が怖い顔をしているのか、それとも子どもたちが先生の表情を見ていないのか、どちらも問題ですね。

朝会でその話をしてから数日が経ちました。何となく、子どもたちの表情が明るくなってきたように感じます。朝の「おはようございます」の挨拶に、自然な「微笑み」がプラスされると、こんなにも気持ちのよいものなのかと嬉しく思っています。

【苦情について】

子どもたちが電車、バス、通学路での行儀が悪いという苦情をいただくことがときどきあります。その都度子どもたちに声をかけ、ときには電車に同乗したり駅のホームで指導をしたりすることもあります。こういう指導を繰り返すことで子どもたちが自分の行動に気づいて少しずつ改善できるようにしています。

保護者への苦情もあります。それは、尾根道（栗平駅とは反対方面）下まで子ども（中高生も含めて）を送迎する保護者の車の多さとマナーです。狭い道で子どもを乗り降りさせたり、そこでしばらく車を停めて子どもを待っていたりすると他の車の通行の妨げになるだけでなく、付近の住民の方への迷惑になります。また、私有地に車を入れて方向転換をする人もいるとのこと。何らかの事情があって車で送迎をしなければならない場合は学校の駐車場に車を停めて子どもを乗り降りさせてください。今回が初めてではないのですが、保護者に対する苦情をいただくというのは非常に残念なことです。